

令和6年 火災と救急救助の概要

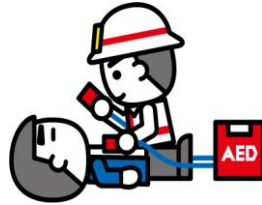
消防本部予防課予防G (☎ 0595-82-9492)

消防本部消防総務課消防救急G (☎ 0595-82-9496)

火災 21 件



救急 2,667 件



救助 40 件



●火災の概要 【消防本部予防課予防グループ】

令和6年中の火災件数は21件で、前年と同数でした。

項目別では、建物火災が7件で前年に比べて2件減少し、そのうち2件が住宅火災でした。また、死傷者は3人で前年に比べて1人増加しており、いずれの死傷者も住宅火災において発生しています。

住宅火災で死傷する原因としては、逃げ遅れが最も多くなっています。火災を早期発見する住宅用火災警報器を設置して逃げ遅れを防止すると共に、定期的に器機の点検を行い作動することを確認しましょう。また、設置から10年が経過した住宅用火災警報器については、故障率が増加する傾向にあることから交換が推奨されています。

項 目		令和5年	令和6年	前年比
火災件数	建物火災	9	7	-2
	林野火災	0	0	±0
	車両火災	2	4	+2
	その他火災	10	10	±0
	合 計	21	21	±0
死傷者	死者(人)	0	1	+1
	負傷者(人)	2	2	±0

※その他火災とは、建物、林野、車両に該当しない火災です。(例：空地の枯草や田畑の火災など)

●救急救助の概要 【消防本部消防総務課消防救急グループ】

■救 急

・事故種別出動件数、搬送人員（表 1）

令和 6 年中の出動件数は 2,667 件、搬送人員は 2,454 人で、前年と比べて出動件数は 110 件、搬送人員は 72 人増加しました。

1 日の平均出動件数は 7.3 件で、平均搬送人員は 6.7 人となっています。

事故種別では、急病によるものが最も多く、次いで一般負傷、交通事故の順となっています。

（表 1）

年 別 事故種別		令和 5 年	令和 6 年	前年比
火 災	出動件数	6	10	+4
	搬送人員	1	2	+1
自然災害	出動件数	0	0	±0
	搬送人員	0	0	±0
水 難	出動件数	1	2	+1
	搬送人員	0	2	+2
交通事故	出動件数	199	206	+7
	搬送人員	189	206	+17
労働災害	出動件数	39	39	±0
	搬送人員	38	38	±0
運動競技	出動件数	3	8	+5
	搬送人員	3	7	+4
一般負傷	出動件数	436	405	-31
	搬送人員	414	364	-50
加 害	出動件数	1	4	+3
	搬送人員	1	1	±0
自損行為	出動件数	17	16	-1
	搬送人員	12	12	±0
急 病	出動件数	1,747	1,851	+104
	搬送人員	1,617	1,699	+82
その他	出動件数	108	126	+18
	搬送人員	107	123	+16
合 計	出動件数	2,557	2,667	+110
	搬送人員	2,382	2,454	+72

・被搬送者の傷病程度別比率（表 2）

令和 6 年中の被搬送者 2,454 人における傷病程度の比率は、軽症が 1,279 人で 52.1%、中等症が 953 人で 38.8%、重症が 170 人で 5.5%、死亡・その他が 52 人で 2.1%となっています。前年と比べて軽症の占める比率が 0.9 ポイント減少しました。

（表 2）

年 別		令和 5 年	令和 6 年
傷病程度			
軽 症	搬送人員	1,263	1,279
	比 率	53.0%	52.1%
中等症	搬送人員	935	953
	比 率	39.3%	38.8%
重 症	搬送人員	128	170
	比 率	5.4%	6.9%
死亡・その他	搬送人員	56	52
	比 率	2.4%	2.1%
合 計	搬送人員	2,382	2,454

※ 軽 症：入院を必要としないもの
 中等症：入院を必要とするもので、重症に至らないもの
 重 症：三週間以上の入院加療を必要とするもの
 死 亡：初診時において死亡が確認されたもの
 その他：医師の診断がないものなど

・被搬送者の年齢区分別比率（表 3）

令和 6 年中の被搬送者における年齢区分別比率は、高齢者が 1,501 人で 61.2%、成人が 730 人で 29.7%、少年が 95 人で 3.9%、乳幼児が 126 人で 5.1%、新生児が 2 人で 0.1%となっています。

（表 3）

年 別		令和 5 年	令和 6 年
年齢区分			
高齢者 65 歳以上の者	搬送人員	1,439	1,501
	比 率	60.4%	61.2%
成 人 18 歳以上 65 歳未満の者	搬送人員	716	730
	比 率	30.1%	29.7%
少 年 7 歳以上 18 歳未満の者	搬送人員	99	95
	比 率	4.2%	3.9%
乳幼児 生後 28 日以上 7 歳未満の者	搬送人員	128	126
	比 率	5.4%	5.1%
新生児 生後 28 日未満の者	搬送人員	0	2
	比 率	0%	0.1%
合 計	搬送人員	2,382	2,454

・医療機関への市別搬送比率（表 4）

令和 6 年中の市別医療機関における搬送比率は、市内医療機関への収容率が 37.5%で、市外医療機関への搬送が 62.4%となっています。

（表 4）

年 別 市 別		令和 5 年	令和 6 年
亀山市	搬送人員	822	920
	比 率	34.5%	37.5%
鈴鹿市	搬送人員	1,265	1256
	比 率	53.1%	51.1%
津 市	搬送人員	149	164
	比 率	6.3%	6.7%
四日市市	搬送人員	134	106
	比 率	5.6%	4.3%
その他	搬送人員	12	8
	比 率	0.5%	0.3%
合 計	搬送人員	2,382	2,454

・現場到着・病院収容までの平均所要時間（表 5）

令和 6 年中の現場到着までの平均所要時間は、9.0 分で前年と比べて 0.1 分短縮しました。
病院収容までの平均所要時間は、41.4 分で前年と比べて 0.8 分短縮しました。

（表 5）

年 別 所要時間	令和 5 年	令和 6 年	前年比
現場到着（分）	9.1	9.0	-0.1
病院収容（分）	42.2	41.4	-0.8

■救急車の適正利用と救急医療情報システムの利用

救急車の適正利用については、広報「かめやま」や救急講習会などを通じて、市民の理解と協力をお願いしていますが、依然として明らかに軽症と思われる方、タクシー代わりの出動要請など緊急性の低い事例がみられます。

救急車を呼ぶほどではないが、すぐに受診を希望される場合は、下記の「救急医療情報システム」を利用してください。

《救急医療情報システム》

パソコン **URL** <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

携帯電話 **URL** <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/k/>

自動案内 ☎0800-100-1199（通話料無料・ファックスでも受信可能）

医療情報センター（対人案内） ☎059-229-1199

※受診の際は、必ず紹介された医療機関に事前確認してください。

※救急車を呼ぶべき症状について詳しくは、市消防本部のホームページをご覧ください。

（**URL** <http://www.city.kameyama.mie.jp/shobo/index.html>）

■救 助

令和 6 年中の救助件数は 40 件で、前年に比べて 14 件増加しました。交通事故に伴う救助出動が最多となっています。

また、全国的に登山中の遭難事故等が多発する中、管内においても登山中の滑落事故や道迷いが相次いで発生しました。

災害はいつ起こるか分かりません。日頃から災害に対して備えましょう。

救助の概要		令和 5 年	令和 6 年	前年比
事故種別件数	交通事故	12	19	+7
	水難事故	2	2	±0
	建物等による事故	8	10	+2
	風水害等 自然災害事故	0	0	±0
	機械による事故	1	0	-1
	その他の事故	3	9	+6
	合計	26	40	+14

※その他の事故とは、交通事故、水難事故などに該当しない事故です。

■災害情報案内の利用

火災などの災害情報を自動音声案内や市消防本部ホームページ（軽易なものは除く）に掲載していますので、ご活用ください。

《自動音声案内》

☎82-9555

《市消防本部ホームページ》

URL <http://www.city.kameyama.mie.jp/shobo/>